



若年層のネット利用行動を中心とした社会心理学的研究

人文科学系・人間科学領域

中山 満子

教授

NAKAYAMA Michiko

博士(人間科学)(大阪大学)

■研究キーワード 対人心理学,社会心理学

■主な所属学会 日本心理学会,パーソナリティ心理学会,日本社会心理学会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.58251d59fa66fc5f520e17560c007669.html>



研究者総覧

研究概要

現代社会に特有の人間の心と行動について、社会心理学の立場から研究しています。

現在の主な研究テーマは、
1)小中学生のハイリスクなネット利用行動
2)青年期のSNS利用と対人関係
です。

これ以外に、「性別専攻分離」の問題、すなわち、なぜ女子の理系進学者が少ないのかという問題について、心理学的な観点からの研究も始めています。

アピールポイント

1. 全国の小学校、中学校の協力を得て、子どもたちから、ネット利用状況やこれと関連が予測される要因についてのデータを得ています。これまでに、見知らぬ人とネット上で交流する経験、すなわち、SNSでコミュニケーションをする、画像を送るなどの経験がある子どもは、実際にネット上で出あった見知らぬ人と会うという行動をしやすいこと、家族満足度、行動抑制が総体的に低いことなどがわかってきています。

このように、ハイリスクな行動につながる要因を特定することで、子どもたちが、ネット利用をきっかけに犯罪被害にあうという事態を現象させる取り組みにつなげることができるのではないかと考えています。

2. SNS利用については、数多くの研究がなされていますが、SNS利用と友人関係のあり方(タイプ)の関連を検討していることに、本研究の特徴があります。高校生を対象とした調査では、現代的な友人関係とされる、傷つけ・傷つけられることを回避し表面的に快適な友人関係を志向する群で、SNS利用でネガティブ感情が生じやすいことが示されました。

青年期のSNS利用の問題を考えると、SNSのみに着目するのではなく、ふだんの友人関係のあり方から考えることが重要と考えられます。

3. なぜ女子の理系進学者が少ないのかという問題に対して、①女子大である本学理工系に学ぶ学生と、共学大学の理工系に学ぶ学生を比較すること、②幼少期からの親からの影響や学校教育の影響、学校教育外の種々の体験等の影響など、多角的な観点から研究しようとしています。

このほか、友達親子やママ友など、現代社会に特徴的と思われる対人関係について研究しています。